

『伊豆ステージ』の走り心地は最高



新緑の中、色とりどりのユニフォームで疾走する選手たち

第三回伊豆サイクルフェスティバルが五月二十六日、伊豆市の伊豆箱根鉄道修善寺駅前やサイクルスポーツセンターなどで行われました。自転車の国際レース「ツアー・オブ・ジャパン」(TOJ)伊豆ステージをメインに、サイクルイベントや特産品販売などが行われ、多くの来場者でにぎわいました。TOJは今回初めて、修善寺駅から同センターまでの一般道をパレード区間として設定し、修善寺駅周辺には地元の人や観光客などが集まり、選手たちに大きな声援を送りました。

日韓交流にも一役



お客さんも舞台上上がって大合唱

6月9日、10日の2日間、第52回静岡県民合唱祭がアクシスかつらぎで行われました。出演者・来場者合わせて延べ3,000人が来場したこの演奏会は、9日に韓国済州島男声合唱団を招いての『男声合唱の響演』、10日に県内55の合唱団が参加した『大合唱祭』が行われました。『男声合唱の響演』では、最後に出演者と来場者が一緒になって、日本の『大地讃頌』、韓国の『アリラン』を大合唱し、日韓の交流を深めました。

音楽とホタルの競演

夕暮れの反射炉と二胡の演奏で、幻想的な雰囲気

六月二日、葦山反射炉で第十一回反射炉ホタルまつり・ホタル観賞の夕べが行われました。多くの家族連れなどが訪れ、昼間はフリーマーケットでの買い物を楽しみ、夜は日が沈みかけて幻想的な反射炉を背にした中国楽器の二胡の演奏などに酔いしていました。また、五月十五日から六月十五日まで、ホタル観賞が行われ、ホタルが放つ幻想的な光に多くの来場者が魅了されました。

体も頭も使う競技



ワン・ツー・フィニッシュとなった両チーム

「第十八回県すこやか長寿祭スポーツ大会」のベタンク競技が静岡市で行われ、土手和田Aチームと立花台Cチームが、優勝、準優勝を飾りました。五月二十八日に優勝報告に訪れた両チームの選手は、健康の秘訣について望月市長と歓談しました。市長は、「ベタンクは、体も頭も使う競技。九十歳でも元気で素晴らしい」と選手たちをたたえました。土手和田Aチームは、十一月に茨城県で開かれる「ねんりんピック」に出場します。

消防団大活躍



長岡第7分団(後列)と葦山第4分団(前列)の選手

五月二十七日に天城ドームで、県消防協会田方支部消防操法大会が行われ、『ポンプ車操法の部』で伊豆長岡方面隊第七分団(鈴木克己分団長)が見事優勝しました。また、『小型ポンプ操法の部』に出場した葦山方面隊第四分団(大川一正分団長)も第三位と健闘。両分団とも、日ごろの訓練の成果が十分に発揮されました。優勝した伊豆長岡方面隊第七分団は八月四日(土)に静岡市の草薙総合運動公園で行われる県大会に出場します。

日ごろの訓練のたまもの



優秀な成績をおさめた田方消防本部消防士

六月十三日に静岡県防災学校で第三十六回消防救助技術大会が行われ、『障害突破』、『はしご登はん』などの技術を競いました。田方消防本部から団体種目四チーム、個人種目四人が出場しました。『ほふく救出』に出場した大川消防士長は優勝し、八月に行われる全国大会に、『ロープブリッジ救出』に出場した園部チームは準優勝し、七月に行われる関東大会に出場します。

優

伊豆長岡柔道会は、県柔道祭小学生の部で優勝、またマルちゃん杯中部少年柔道大会で三位に入賞し、全日本選抜少年柔道大会出場を決めました。六月四日、選手たちは市長に成績報告をしました。市長は、「みんながヒーロー、ヒロイン。全国に向けて練習に励んでほしい」と激励しました。



笑顔で優勝報告をする長岡柔道会の選手たち

みんながヒーロー

続

続

勝

PHOTOぎゃらり~

伊豆長岡方面隊第7分団「放水始めー！」



プールサンゆう利用者四十万人達成



『長岡温水プールサンゆう』は、6月4日に延べ利用者40万人を達成し、記念セレモニーを行いました。40万人目の入館者となったのは、加藤哲男さん(南条)。退職後、運動不足解消にと同プールに通いはじめ、水泳教室や水中運動教室を含め、毎週3回利用しているそうです。プールでできた顔見知りや挨拶を交わすのも楽しみとか。「泳ぐのはちょっと」という人も、まずは水中ウォーキングから始めてみては。問合せ『プールサンゆう』電話055 947 0176